

# 牛久二中だより

牛久市立牛久第二中学校  
平成27年12月24日発行  
学校通信12月号[文責櫻井]

## 少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業

本校は、現在全校生徒90人の茨城県内の中学校としては、とても小規模な学校であることは、保護者の皆様、地域の皆様もご承知の通りだと思います。牛久市や牛久市教育委員会でも、本校の生徒数を増やし、活力に満ちた学校生活を生徒が遅れるようにと検討がなされたり、ご支援をいただいております。7月17日発行の学校便りでもご紹介しましたが、奥野小学校と牛久第二中学校が力を合わせて、特色ある教育を展開してまいりたいと考えています。小規模校のメリットを活かし、デメリットを最小限にとどめる施策を実施して、一人一人の生徒が生き生きと学校生活をおくりながら、知徳体の調和のとれた成長を図り、生徒一人一人に「生きる力」を育成していくものです。

小規模校であり、伝統校でもある牛久第二中学校のメリットは、①生徒一人一人がお互いをよく知っていて寛容である。②学校行事や学習・部活動などで心をつなぐ団結しやすい。③少人数を活かした多様な教育が展開できる。④地域の多くの方々や卒業生や元保護者であるなど学校に関係し、学校教育に協力してくれる。などが挙げられます。一方デメリットとしては、①固定化した人間関係により、切磋琢磨してお互いを高め合う意欲を減退させ、学習にも影響している。②価値観の違う人との交流の機会が少なく、人間関係のトラブルを修復しづらい。などが挙げられます。

文部科学省より、奥野地区（奥野小学校・牛久第二中学校）に「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」の指定を受け、小規模校の存続の在り方を研究することとなりました。

そこで、まず学習することの意義や喜びを生徒一人一人が体感し、更に多様な価値観を持った人との交流を増やすという視点で、英語科を中心とした国際理解教育の充実を図ること。地域の教育力を活かして、「ふるさと奥野」をよく知るという視点で、自然や文化、そこに生きる人々を学ぶことで、将来にわたって直面するであろう様々な課題を解決する力を育成すること。の二つの視点で特色ある教育を展開し、生徒一人一人に将来に渡って「生きる力」となるであろう「学力」と「自分の生まれ育ったふるさとを愛する心」を育てたいと考えています。

## 英語科の授業充実

7月から1年生、9月から2年生が、1クラスを二つに分けて英語科の授業を行っています。3年生は受験を控えていますので、新しい授業形態は避けて、今まで通りの授業形態で授業を行っています。

11月からはALTの先生（アレックス）も、増員されて、さらに英語の授業の充実を図ってきました。1時間の授業の中での練習量が増え、ALTとの直接の会話の機会も飛躍的に増加することができました。

今後は、充実した授業の成果を活かす場面として、姉妹都市オレンジ市の中学生との手紙やメールのやりとりテレビ会議、来年度から2年生で福島にあるブリティッシュヒルズへの校外学習等を計画しています。



<学校便りなどのお便りは、学校ホームページにも掲載されています。是非ご覧ください。>